

## 別紙

### 温室効果ガス削減実施状況報告書

#### 1 事業の概要

- (1) 事業所の名称 鹿川ターミナル株式会社
- (2) 事業所の所在地 広島県江田島市能美町鹿川3-1-5
- (3) 業種 倉庫業 4711

#### 2 計画の期間

平成 20(2008)年度を基準年度とし、令和 2年 (2020)年度から令和 6年 (2024)年度までの 5年間としている。

### 3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（ t-CO<sub>2</sub> ），削減率（ % ）

温室効果ガスの種類	基準年度 実排出量 (a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
エネルギー 起源 CO <sub>2</sub>							
非エネルギー 起源 CO <sub>2</sub>							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス 実排出量総計							
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価							

※ 削減率 (c) = ((b) - (a)) / (a) × 100      削減量の対基準年度比 (e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： タンク放熱面積 (a ㎡)

温室効果ガスの種類	基準年度 の実績 (a)	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成 20 年度 (2008 )	令和 6 年度 (2025)	令和 6 年度 (2024 )	令和 5 年度 (2023 )	令和 4 年 度 (2022)	令和 3 年度 (2021 )	令和 2 年 度 (2020)
エネルギー 起源 CO <sub>2</sub>	18.89	13.67 27.6%				10.96 42.0%	9.94 47.4%
非エネルギー 起源 CO <sub>2</sub>							
メタン							

一酸化二窒素	0.0013	0.00094				0.0007 5	0.00067
		27.7%				42.3%	48.5%
その他 温室効果ガス							
温室効果ガス 総排出量	18.89	13.67				10.96	9.94
		27.6%				42.0%	47.4%
エネルギー消費原 単位（原油換算 kl）	6.81	4.93				4.04	3.63
		27.6%				40.7%	46.7%
実績に対する 自己評価		令和3年度は令和2年度と比べて火力発電所向けの原重油の出荷が増えたため、配管加温に係る蒸気使用量が大幅に増加したが、タク休止等によりタク加温に掛かる蒸気使用量は大幅に減少したため、年間蒸気使用量はほぼ同等となった。タク休止に伴い原単位算定に用いる指標（タク放熱面積）が下がっているため、エネルギー消費原単位が改善されにくい傾向にある。					

※ 削減率 (c) = ((b) - (a)) / (a) × 100      削減量の対基準年度比 (e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

#### 4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

##### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃焼用の燃料使用量の削減	<p>令和2年度ボイラ燃料使用量 C重油 2195KL</p> <p>令和3年度ボイラ燃料使用量 C重油 2303KL</p> <p>前年比 燃料使用量が 4.9%増加</p> <p>※令和2年11月までは蒸気使用量を減少させるために、使用する配管のみ通気する等の管理を行っていたが、令和2年12月以降、火力発電所向けの原重油の需要が増加しており、急なオナーにも対応可能とするために、ほとんどの配管を加温している。</p> <p>弊社のボイラ稼働率は、火力発電所の稼働率や燃料情勢に左右されるところではあるが、改めて配管加温の運用方法を見直すとともに、更なる設備の改善も図る必要がある。</p>	<p>原重油タワの貯蔵油は管理温度を維持するために蒸気で加温しているが、客先に相談して管理温度を引き下げるように努めている。</p> <p>2020年度は、熱交換率を向上する目的として、タワ加温用の蒸気配管を増設した。</p> <p>2021年度は、熱効率上昇を目的として、タワ加温後の蒸気を回収している配管に保温を設置した。</p> <p>2022年度も同様に、蒸気回収配管に保温を設置する計画を立てている。</p>
2			
3			
4			

##### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

##### ○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	その他	特に定めず	構内山林への植樹

2	その他	年間 20 千 kWh 年間13tCO <sub>2</sub> 削減	太陽光発電システム R3 年度実績 22 千 kWh

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。